

第9回詩のまち前橋

若い芽のポエム

入賞者と作品を紹介しします

「第九回詩のまち前橋若い芽のポエム」の選考委員会が九月一日に前橋テルサで行われ、一万五千編以上の中から入賞作品が決まりました。銅賞までの入賞者名や選考委員長の講評、三部門で最優秀賞の美棹賞に選ばれた作品・入賞者を紹介します。賞の贈呈式と朗読会は十一月十二日に前橋文学館で行われます。

問い合わせは生涯学習課 890 5825へ。



記者発表の席で講評を述べる秋谷選考委員長

「詩のまち前橋若い芽のポエム」は全国の小中学生、高校生を対象にした詩のコンクール。九回目を迎える本年度は一万五千六百編の応募がありました。応募数は年々増え、作品のレベルもますます向上しています。入賞作品を選考するに当たり、まず、推薦委員による予備選考で推薦作品を決定。その後、選考委員による本選考が行われ、入賞作品が決まりました。

90人が入賞に決まりました

入賞作品は合計で九十編でした。三部門の入賞者は次のとおりです。

小学生の部

敬称略

美棹賞(金賞)＝佐藤美由紀(大

胡東小五年) 銀賞＝野田梨華(元総社南小一年) 銅賞＝武井愛(桃井小五年) 佳作＝十一人 入選＝三十三人

中学生の部

美棹賞(金賞)＝阿部智里(荒砥中二年) 銀賞＝富沢圭(二葉養護学校二年) 銅賞＝蒲原知穂(福岡教育大附属久留米中二年) 佳作＝八人 入選＝二十四人

高校生の部

美棹賞(金賞)＝仁平井麻衣(東京文化高二年) 銀賞＝渡辺洋平(前橋育英高二年) 銅賞＝岩崎竜也(県立前橋高二年) 佳作＝二人 入選＝三人

選考委員長の講評あらまし

選考委員会終了後、入賞作品決定記者発表が行われ、入賞作品の発表後、秋谷選考委員長から次の講評がありました。

小学生の詩は、自分の思ったこと、感じたこと、体験したことをありのままに、率直に言葉

で表しています。お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんなども題材に、わたしたちが、今生きていることに対する考察が表現されていました。

中学生では少し大人の世界に近づいていきます。今、混んとした状況で、生きる悩みが取り上げられ、それが詩の層の厚さとなり、深みが増してきます。高校生になるとさらに複雑になります。これから大学へ行き、社会人となつて、いろいろなものに向き合っていくわけです。

詩の中からは、社会や人間に対する気持ちと同時に、自分の内面に対する思いやそれをさらに探っていく詩が見られました。一つ一つの作品には、生きていくというこの実感、今を生きていることが確実に反映されています。自分が体験した世界のことだけでなく、さらに体験したいこと、社会の出来事もきちんと取り上げてありました。わたしたち選考委員自身も一緒に勉強して、それぞれの詩の世界を歩いていくような気持ちで作品を選びました。